

芸術植物園、ご覧いただいた方はお分かりのように、ここ尾張名古屋を代表する植物学者・伊藤圭介を大フィーチャーしております。幕末から明治にかけて大活躍した伊藤圭介は、来日中のシーボルトに学び、日本初の理学博士となった人物。九州生まれの私は、実はここ名古屋に来るまで恥ずかしながらその存在を知らなかったのですが、名古屋の方は皆ご存知のようで、あちこちに像が設置されているほどの愛されぶりに驚きました。

というわけで、今回の記事はこの伊藤圭介ゆかりの地のうち、比較的行きやすいところをいくつかご紹介したいと思います！

・伊藤圭介記念室

まず、何と言っても外せないのが名古屋市東山植物園さん。植物園門を入ってすぐ左の事務所の建物内に伊藤圭介を顕彰する「伊藤圭介記念室」があり、本展出品の伊藤圭介関係資料は、いずれもこちらからお借りしております。なお東山植物園の皆さんは、花を見分けられない私にかわって、本展出品作に描かれた植物を同定していただくというとても面倒な作業も快くお引き受けくださいました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

・生家跡

続いて伊藤圭介の生家跡。「伊藤圭介先生誕生之地」という碑が設置されています。



背面の碑文には次のようにあります。

伊藤圭介先生（1803-1901）は日本を代表する偉大な植物学者で多くの輝かしい業績を残されわが国で最初に博士号を得られた人である。この地は先生が享和3年1月27日に生まれ66歳で東京へ移られるまで住んでおられた所である。双葉を象徴するこの碑は若い人々の伸びゆく魂への期待でもある。

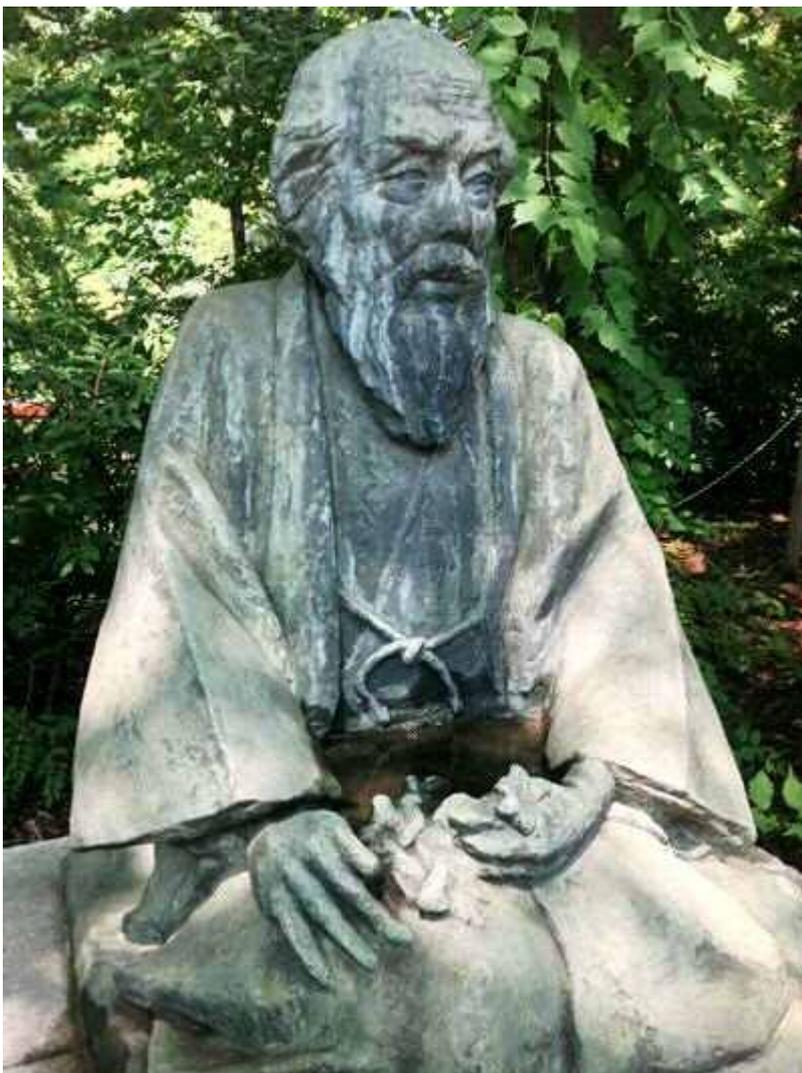
なるほど、言われてみれば双葉ですね。場所は呉服町通りと上中通の交差点そばです。

・旭園跡

そして、圭介が1858（安政5）年に設けた植物の栽培・研究拠点「旭園」跡。…を訊ねようと思ったのですが、そこにあるはずの石碑が見当たりません。以前は老舗和菓子店・名古屋亀末廣の店先にあったようなのですが、同店は2012年7月に閉店、現在はコインパーキングになっています。閉店の際に撤去されてしまった…？場所は中区錦3-14付近です。事情をご存知の方がいらっしゃいましたらTwitterなどでぜひご教示くださいませ。

・伊藤圭介座像

最後に、花を持った圭介の座像。鶴舞中央図書館の駐輪場付近にひっそりと設置されています。碑文をみると、1957年に圭介の功績をたたえて建立されたとのこと。



▲連日の雨で水たまりが。



▲いろいろな植物に囲まれる伊藤圭介。



▲鶴舞中央図書館の来館者を見守る。

なお、ゆかりの地の場所は名古屋大学附属図書館ウェブサイトを参考にさせていただきました。まだまだゆかりの地は沢山あるので、時間を見つけて行ってみたいと思います。皆さんも機会がありましたらちょっと気にして見てみて下さいね。

(KS)